

| | |
|--------|-----|
| 6 | 読 む |
| 短歌を味わう | |
| 〔確認〕 | |
| 名 | 前 |
| 解 答 | |

やってみよう

「解答と解説」

一

ウ

・この短歌のように、最後まで区切れないこともありま。言い切りになっているところ、切れ字があるところに注目しましょう。

二

a ばらの芽

・「やはらかに」「は」「ばらの芽」と「春雨のふる」にかかっています。「やはらか」「なのですから、ばらの芽は、まだやわらかい新芽ということになります。

b 春雨のふる

三

イ

・正岡子規まのあかしきの写実主義のことを「写生」といいます。

四

やはらかに 柳あをめる
北上の 岸辺

・この短歌は、啄木の故郷の北上川の岸辺で、やわらかい柳の芽が出ている様子が、まるで泣けと言っているかのようになつかしく目に浮かんでくる、という意味です。ここでは、「優しく明るい故郷の春の様子」を書き抜けばいいのですから、「北上川の岸辺で、やわらかい柳の芽が出ている様子」に当たるところを短歌から書き抜けばよいです。

石川啄木（一八八六～一九一二）
いしかわたくぼく

・文学にあこがれて上京しますが、仕事でも家庭でも思つうようにいかなない現実に直面した啄木にとって、東京は「異郷」のままでした。

五

三行書き（三行分かち書き）

・三行に分けて書く「三行書き（三行分かち書き）」は石川啄木の特徴です。

・石川啄木はもともと一行で書いていました。しかし、土岐哀果とぎあいかの影響を受けて三行書きに改め、有名な『一握の砂』を出しました。

六

ア

・「岸辺目に見ゆ」と「泣けとごとくに」の語順を入れ替えている倒置法です。

ウ

・「泣けとごとくに」「は、」「泣けと言われているように」という意味で、「ごとくに」というところに、ひゆ比喩法が使われています。